

ポスター①

漢方教育について ～漢方煎じ薬実習アンケートから～

田端店
○加藤 香里
○小野田 彩子

【背景】

「薬学教育実務実習モデル・コアカリキュラム改訂版」の漢方に係わる部分ではGIOは、「漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する」とある。

限られた時間の中でこれらをすべて行うことは難しいため、漢方に興味を持ってもらい、継続して漢方を学ぶ意欲を高めることが必要と考えた。

【目的】

実習前と実習後にアンケートを行い、漢方への興味の持ち方がどのように変わったか、またどの講義に興味を持ったかを把握する。

【方法】

今年度から実習内容を一部変更し、その結果をアンケートから考察する。体験型実習を一つ増やし、生薬の現状を知ってもらうための講義を増やした。アンケートは実習前と実習後に実施した。

【結果】

2日間の実習での理解度は、「理解できた3名」「大体理解できた13名」と全員が理解できた。と答えた。講義・実習で良かった内容は、上位から「処方検索」「エキス剤の説明」「薬局製剤（実地・葛根湯調剤）」であった。「漢方に興味はありますか？」という質問に、実習前・実習後共に16名全員が、「ある」と答えた。

【考察】

「漢方に興味はありますか？」という質問に、実習前・実習後共に16名全員が、「ある」と答えた。その理由を読むと興味のもち方が、実習前と実習後では明らかに異なり、「面白い」と答えた学生が複数いることから漢方に興味を持ってもらうという点では、目的を達成できていると考える。

また、「もっと詳しく知りたい」「西洋医学とは別の考え方もわかるようになりたい」と答えた学生もおり、継続して漢方を学ぶ意欲を高める点でも成果がでていると考える。

またこの発表をきっかけに、他店舗の指導薬剤師との連携がすすみ、自店舗実習生への指導や意見交換も活発になると考える。